

【学年】 3年	【教科】国語 「すがたをかえる大豆」 (8時間)
【単元目標】 ○中心となる語や文をとらえ、段落相互の関係を考えながら文章の内容を的確に理解することができる。 ○内容を大きくまとめたり、必要な所は細かい点に注意したりしながら読むことができる。 ○構成や段落相互の関係に注意しながら、文章を書くことができる。 【実践の概要と子どもの様子】 - 大豆が様々な食べ方をされていることに関心をもち、文章構成を理解しながら読む。 ・題名を読み、大豆を使った食品にどんな物があるか、予想し話し合う。 ・全文を読み、大豆を使った食品を確かめる。 - 教材文を「はじめ」「中」「終わり」の大きく三つに分け、それぞれの部分の大まかな内容と役割をとらえる。 ・「はじめ」と「終わり」の部分に書かれていることを読み「はじめ」に入れる「問い」を考える。 ・「中」で説明されている内容を整理する。 「中」の段落の内容を正しく読み取り、説明の仕方の工夫を見つける。 ・段落ごとに何がどの順番で書かれているか考え、接続語との関係や中心となる文や大事な言葉を考える。 - 説明的文章の分かりやすい書き方を知る。 ＊知的好奇心について 身の回りにあふれている大豆やその加工食品は、毎日の食卓で目にすることも多く、子どもたちにとって身近な食べ物ばかりである。しかし、大豆を使った加工食品は多数あり、見ただけでは大豆からできていると思われない物も多い。そこで、本単元の学習は、子どもたちに意外性をもって知ることの喜びを持つことができるものと考えた。 本単元は、大豆をおいしく食べるための工夫を五つの例で説明している典型的な解説型の文章である。まずは全体の組み立てを考えた後、「中」の段落の各段落を、説明の中心になる文に着目し、段落相互の関係を捉えることをねらいとしている。さらに、各段落の最初の言葉を細かく読み取ることで、なぜ五つの事例がこのような順番でならんでいるのかということを考えていく。大豆についてもっと知りたいという子ども達は、説明文の構成を考えながら、事例の順番についても、興味関心をもって考えていくことができるのではないかと考えた。	